

## 平成 30 年度第 9 回教育研究評議会議事要録

日 時	平成 31 年 1 月 16 日 (水) 13 時 30 分 ~ 14 時 47 分
場 所	第一会議室
出席者	石田学長, 藤井理事, 茅野理事, 池田理事, 佐藤理事 塚本地域デザイン科学部長, 藤原評議員, 増田評議員 佐々木国際学部長, 磯谷評議員, 中村評議員 伊東教育学部長, 黒後評議員, 人見評議員 阿山工学研究科長, 入江評議員, 横田評議員 夏秋農学部長, 齋藤評議員, 山根評議員
陪 席	溝口監事, 堀監事, 川田副学長, 松金学長特別補佐

議事に先立ち, 平成 30 年度第 8 回教育研究評議会議事要録 (案) を確認し, 原案のとおり承認した。

### [議 題]

#### 1. 教員人事について

資料 1-1~1-2

(1) 学長から, 資料 1-1 に基づき, 学術院 (工学研究科) 准教授の採用に関する人事調整会議における選考経過について説明があった。

次に工学研究科長から, 資料 1-1 に基づき, 工学研究科人事教授会における業績審査について説明があり, 審議の結果, 大学設置・学校法人審議会による教員審査の結果が可であることを条件とし, 結果伝達日の翌月 1 日付けで採用することを承認した。

(2) 学長から, 資料 1-2 に基づき, 教職センター特任教員の選考に関する人事調整会議における選考結果について説明があった。

次に茅野理事から, 資料 1-2 に基づき, 人事調整会議における業績審査について説明があり, 審議の結果, 平成 31 年 4 月 1 日から平成 32 年 3 月 31 日の任期で採用することを承認した。

#### 2. 中期目標・中期計画 (別表) の変更について

資料 2

藤井理事から, 資料 2 に基づき, 中期目標・中期計画 (別表) の変更について説明があり, 審議の結果, 原案のとおり承認した。

#### 3. 学部 GP 及び大学院成績評価の見直しについて

資料 3

茅野理事から, 資料 3 に基づき, 学部 GP 及び大学院成績評価の見直しについて説明があり, 審議の結果, 原案のとおり承認した。

#### 4. 大学院担当手当の一部改正について (案)

資料 4

茅野理事から, 資料 4 に基づき, 大学院担当手当の一部改正 (案) について説明があり, 審議の結果, 原案のとおり承認した。

#### 5. 人事院勧告への対応について (案)

資料 5

総務課長から, 資料 5 に基づき, 人事院勧告への対応 (案) について説明があり, 審議の結果, 原案のとおり承認した。

#### 6. 地域創生科学研究科の設置, 教職大学院及び工学部の改組に伴う宇都宮大学学則及び宇都宮大学院学則の一部を改正する規程等について (案)

資料 6

総務課長から, 資料 6 に基づき, 地域創生科学研究科の設置, 教職大学院及び工学部の改組

に伴う宇都宮大学学則及び宇都宮大学院学則の一部を改正する規程等(案)について説明があり、審議の結果、原案を承認した。

#### 7. 事務組織の見直し(案)について

資料7

学長及び佐藤理事から、資料7に基づき、事務組織の見直し(案)について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

なお、本件の資料については、あくまで事務組織図であり、指揮系統図とは異なるため、全学委員会についても一度整理をしたうえで、指揮系統図と併せて2月には案を出す予定である旨説明があった。

また、平成32年4月1日からの事務組織案の峰及び陽東キャンパス事務室については、キャンパス事務室の中にそれぞれの学部を担当する者をおき、総務や会議等学部固有の事務を担当してもらうことを想定しており、会計関係等の集約化できるような業務については、事務局で集中して管理する予定である旨説明があった。

#### 8. その他

学長から、第8回教育研究評議会において議論のあった人事給与マネジメント改革に対する意見の有無について確認があり、基本的には、前回教育研究評議会での会議資料を基に進めていく予定であることの説明があった。

#### [報告事項]

##### 1. 宇都宮大学大学院地域創生科学研究科修士課程の設置準備状況等について

資料8

川田副学長から、資料8に基づき、宇都宮大学大学院地域創生科学研究科修士課程の設置準備状況等について説明があり、定員に達していないプログラムについては、学生確保について協力いただきたい旨依頼があった。

また、附帯事項の進捗状況について確認があり、順調に準備を進めている旨報告があった。

##### 2. その他

池田理事から、机上配付資料に基づき、1月21日(月)に行われるシンポジウム「環境化学物質のリスクに向き合う」の開催について説明があり、参加への協力依頼があった。

以上